

密山事

知らないのはあなただけ

NTR

『セックストリガー』

相手の長いペニスで子宮頸部を刺激され

絶頂に至ったヒトのメスは

脳回路が書き換えられ

相手のオスとの特殊な絆を形成する

たとえ相手が

軽蔑に値する人物であったとしても――



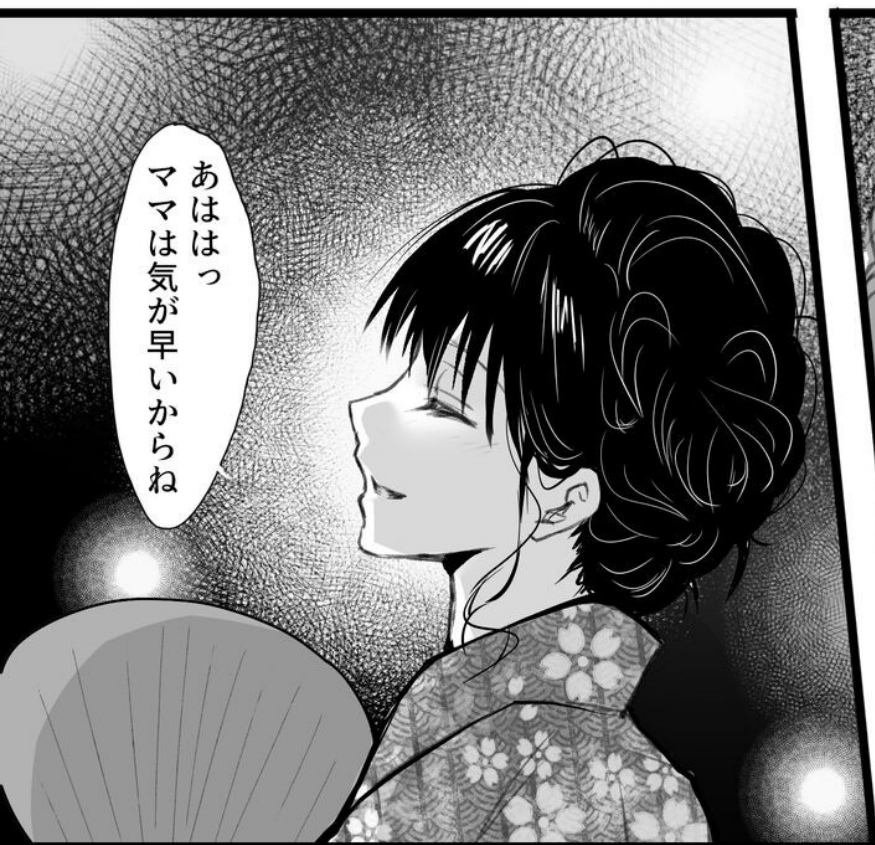
学校生活
最後の夏休み

私
たかみやさつき
高宮咲月は



妹の咲奈と
彼氏のヒロ君と

地元の夏祭り会場に
向かっていた



あははっ
ママは気が早いからね



ねえねえヒロくん
ヒロくんって
お姉ちゃんと結婚するの？

ヒロくんがいるから
お姉ちゃんは安心ねって
ママが言ってたよ



えっ
けっ…けっk

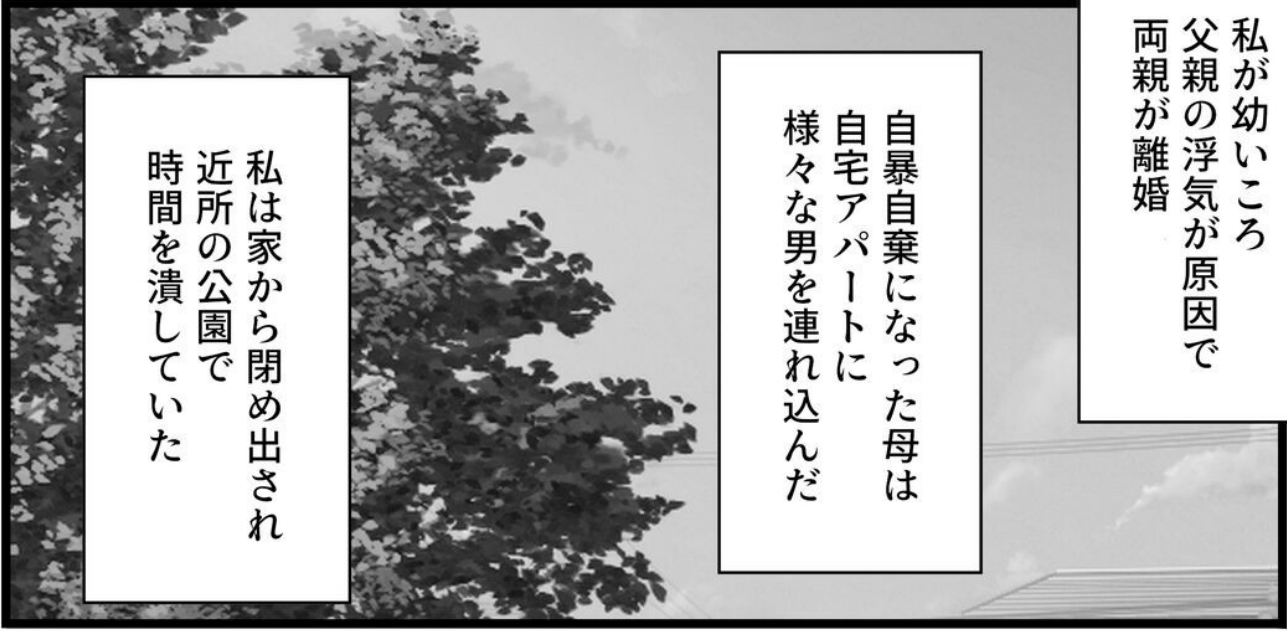
幼馴染でもある彼は

私にとって家族同然の存在だ

次にママが
帰ってくるの
いつかなあ
妹

うーん
ママは自由人
だからねえ
姉

私は所謂
母子家庭の放置子
というものだった……



私が幼いころ
父親の浮気が原因で
両親が離婚

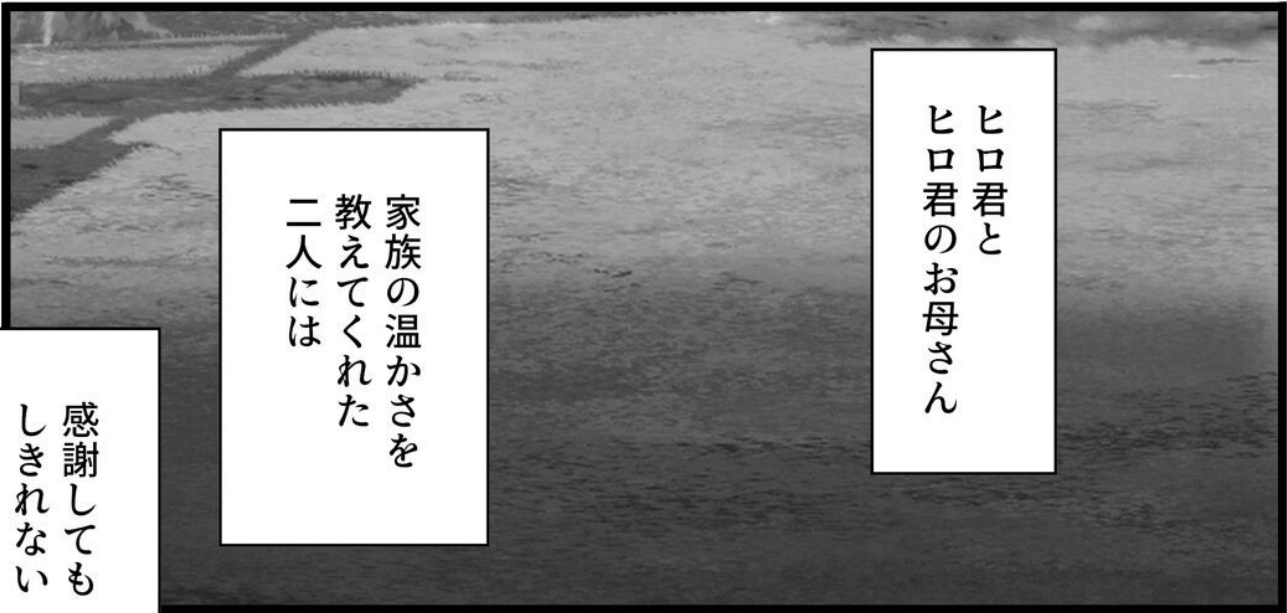
自暴自棄になった母は
自宅アパートに
様々な男を連れ込んだ

私は家から閉め出され
近所の公園で
時間を潰していた



そんな私を見た
ヒロくんの一家が
私を迎え入れてくれた

ヒロ君の
お父さんは多忙で
姿を見かけることは
少なかったけど



ヒロ君と
ヒロ君のお母さん

家族の温かさを
教えてくれた
二人には

感謝しても
しきれない

私とヒロ君は
互いの両親の
思惑どおり

いずれ
結婚するのだろう

……でも彼は

私たち家族の秘密を知らない

あれは
三年前のこと――



さっ……

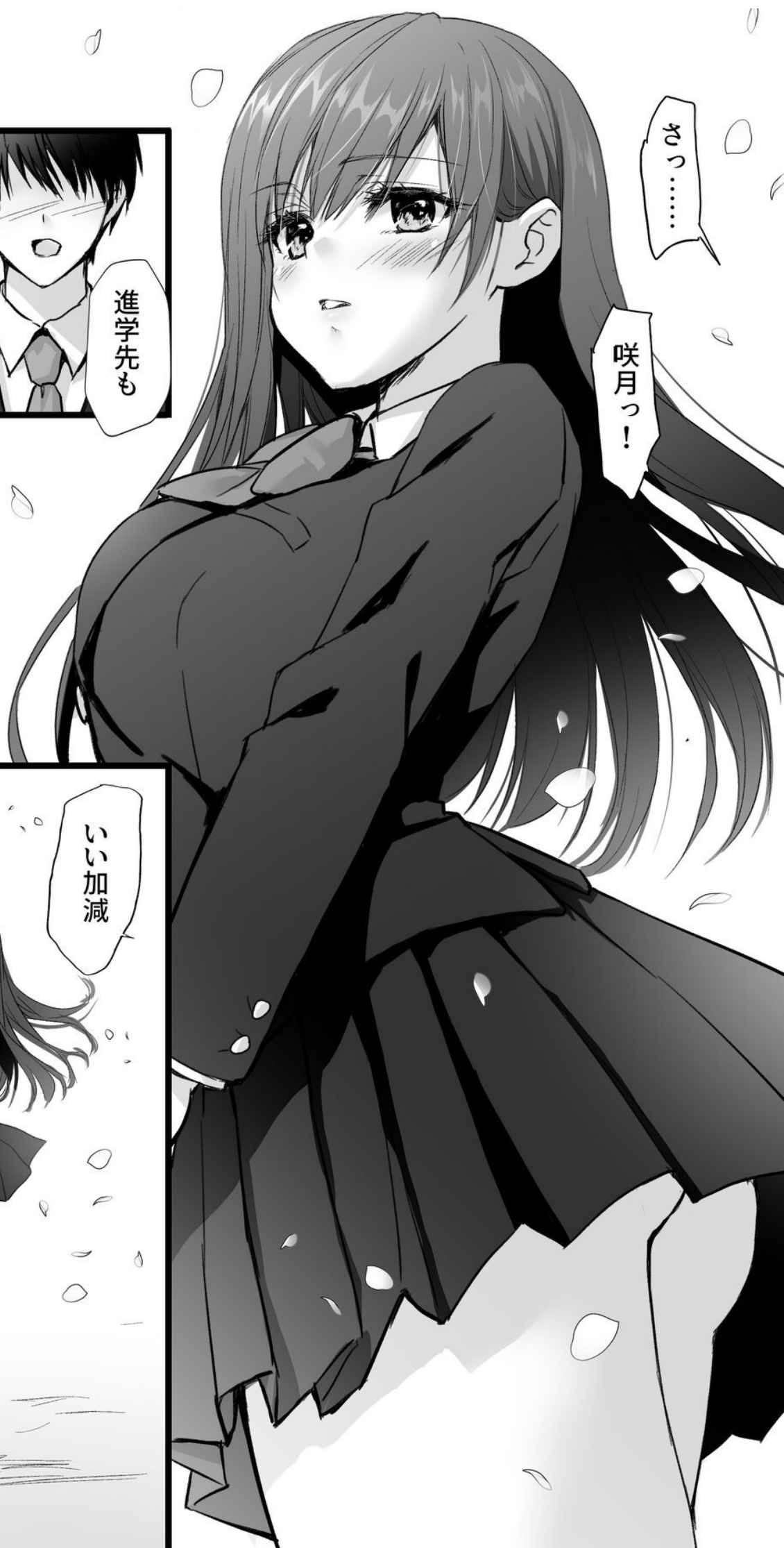
咲月っ！

進学先も

一緒なんだしき……

いい加減

俺と付き合ってよ……！



咲月は誰とも
付き合いたくないって
言ってるけど

俺は咲月と
付き合いたいし
彼女になってほしい

お互い好きなのに
付き合えないなんて
辛すぎるよ……

だから何度
断られても
俺は………！

………わかったよ

もうヒロ君の好きにしなよ



ヒロ君の
押しに折れて

私が
義務教育を
修了した日

ウツ
ウツ
ウツ

私とヒロ君が
付き合うことにな
った日

既読

咲月、卒業おめでとう。
これでもう大人になったんだか
ら、これからは姉妹で協力して
生きてちょうだい。ママは自分
の人生を生きたいの。

今からNマンションの〇階***室
に行きなさい。
今後のことは彼が面倒を見てく
れるわ。

それじゃ元気でね。

母から
連絡があった



私は
最初から
分かっていた

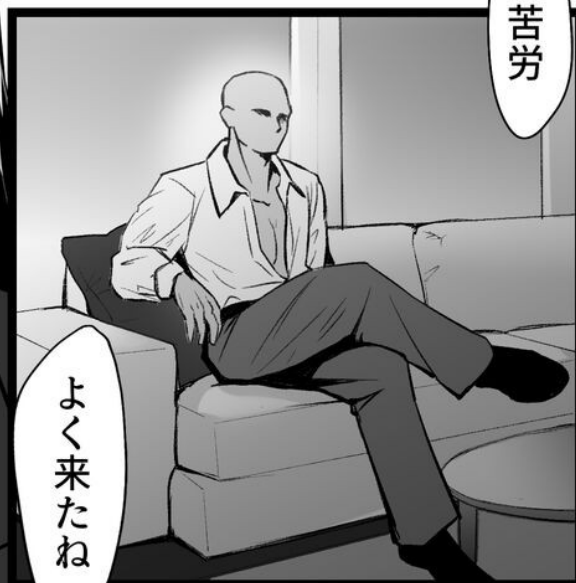
そこに
誰がいるのか



……ご無沙汰してます



ご苦労

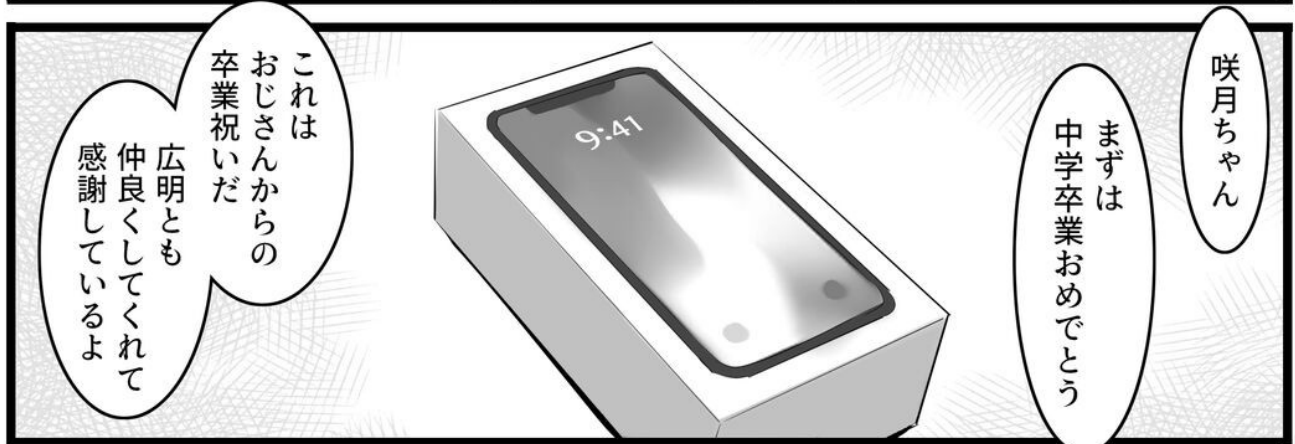


よく来たね



ヒロ君のお父さんだ

彼は――



咲月ちゃん

まずは
中学卒業おめでとう

これは
おじさんからの
卒業祝いだ

広明とも
仲良くしてくれて
感謝しているよ



まあ
遠慮せずに

君のことは娘のように
思っているからね



……こんな高価なもの
いただけません



……

やれやれ

私もえらく
嫌われてしまったものだな

きみのお母さんは
娘たちを捨てて

新しい男のもとへ
行ってしまった

知ってます

私が何年あの人の娘を
やっていると思っ
っているんですか

ええ

母はあなたの
愛人でしょう？

ザッ
ザッ
ザッ

ハイミ

とんでもなく無責任で
薄情な女だね

同情するよ

では 君のお母さんと
私の関係も――

ははっ

そうとくれば話は早い

あんな狂った女
よく相手にできましたね

咲月ちゃんね

お母さんに売られたんだよ

これから私の
言うとおりにすれば

おはよう

生活費も
学費も……

妹のことも
心配なくていい

こいつは

脳ミソを
性欲に支配された

ロクでもない男

君は本当に
顔色ひとつ変えないな

パサッ

あんな母親を見て
育ったおかげだろう

落ち着きのない
あの女から
生まれたとは思えない……

私がこの男に何をされるのか
ここに来る前から解っていた

おしゃん

日々の生活が保障されるなら
安いものだ



ほら
そんな硬くならずに

こんなこと
本当にくだらない

私は
さっさと終わらせて
帰りたいかった



おっ
濡れてきたぞ

性格は正反対のようだが
身体はそっくりだな……!!

ははっ！
本当にあの女にそっくりだな！

反応したくない

ほら！
抵抗したって無駄だぞ！

いやだ

いやだ

いやだ

私は
母のような
色情狂じゃない——！！



そういえば
咲月ちゃん

広明とは
どうなんだ？

あの子は本当に
奥手な子だね

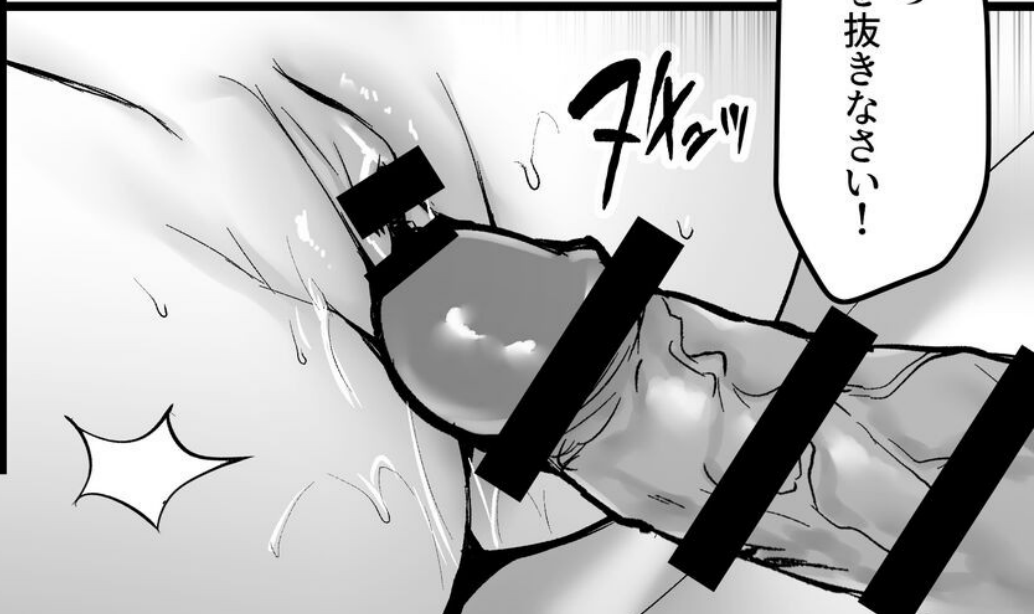
妻に
似てしまったか

ヒロ君は本当に
こいつとは正反対だ

ほら
力を抜きなさい！

ただの生理現象だから
仕方ないとはいえ

反応してしまう
自分の身体が
憎らしくて仕方がない





ん……くっ……

おぼろげな
記憶

ぬ

ア
ア
ア

お

やはり君の母親から
聞いていた通りだ

まあ
傷物の娘だろうが
どうでもいい

咲月ちゃん

君は処女じゃないな

お

君は生まれつき
淫乱になる素質が
あるんだからな！

いい…っ！

こいつは

いいぞっ！！

ヒロ君に
知られたくない

あの事件を

弱いところも
きっと同じだろう……！！

おやこ
やはり母娘だから
なか
膣内も似ているな！

私の秘密を

知っている……

これ
いやだ……っ！

絶対に
声なんか
出さないんだから

私は
あんな母のように
ならないんだから

はやく
はやく終わって

こんなの
気持ちよくなんか
ない……っ！

いやっ！最低！
最低……ッ！！

無様にも反応してしまう

自分の身体が憎い――



.....。

やっと終わった
なんとか耐えられた

私と咲奈の生活を守るためなら
これくらい.....

生きていくために
身体を売るなんてこと
みんなやってるんだから
大丈夫

私はこんな低俗なことに
溺れたりしない.....

おい

なにポーっ
と
しているんだ

はやく
ここに乗りなさい

咲月ちゃんの進学先は
広明と同じ
私立学校だったな……

今までは
お母さんが
稼いでくれてたが

これからは
咲月ちゃんが
自分で稼ぐんだぞ？

これでもし
進学できなくなると

幼いころからずっと一緒だった
ヒロ君と離れるのはつらい

大丈夫
別に減るものじゃないし

こんな刺激
なんともない——





だめだ

挿れただけで
イッてしまうなんて
思いもしなかった

腰をがっしり掴まれて
奥の弱いところを
何度も何度も突き上げられて

こんなの
耐えられるわけ
ないっ……!!

私の記憶は
そこで途切れてしまった――



.....

君は母親と違って
物わりの良い娘だ……
そうだろう？

必要なものがあつたら
そのスマホを使って
いつでも連絡しなさい

このことは
広明や沙奈ちゃんに
気付かれないようにするんだぞ

……三年前

私とヒロ君が
付き合うことになった日

私は
ヒロ君のお父さんの
愛人になった——

